

繪本豐臣勲功記

五編

貳





繪本豊臣勲功記五編卷之貳

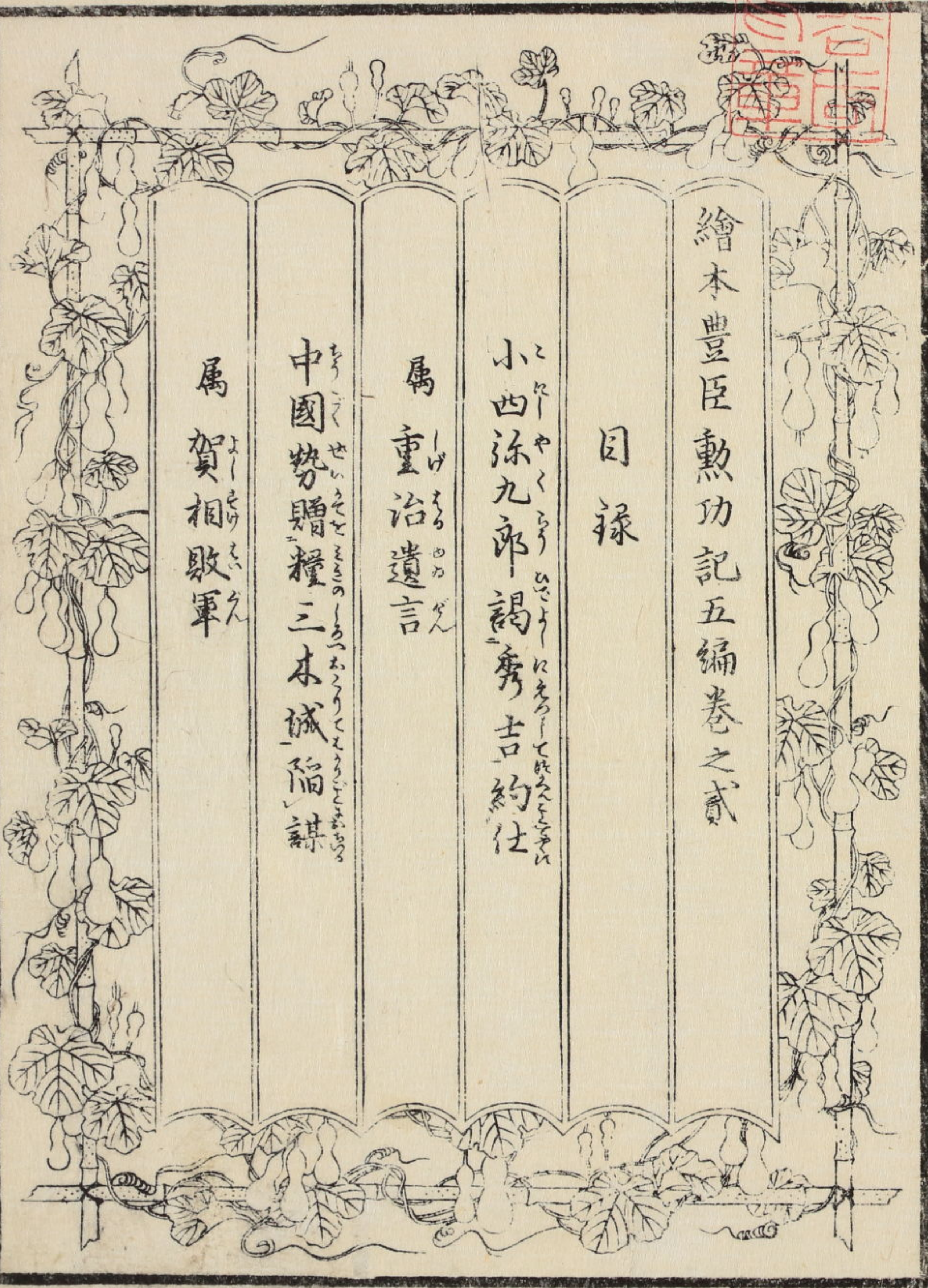
目錄

小西^{こにし}_や九郎^{くわにちろう} 謁^{てつ}秀吉^{ひでよし}約^{やく}仕^し

屬^{しゆ}重治^{ちゅうぢ}遺言^{いごん}

中國^{ちゆうごく}勢^{せい}贈^{さう}糧^{りやう}三本^{さんぽん} 城^{じやう}陷^{けん}謀^{ぼう}

屬^{しゆ}賀相^{がさう}敗^{ばい}軍^{ぐん}



早稲田書局蔵

別所滅亡秀吉園鎮播州

属 築城姫路

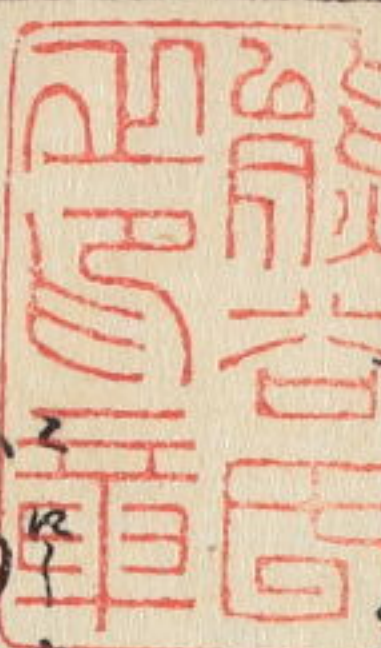
蜂湊合戦浮田基家殿死

属 謀船退敵



繪本豊長勲功記五編卷之貳

江戸 櫻澤堂山 編輯

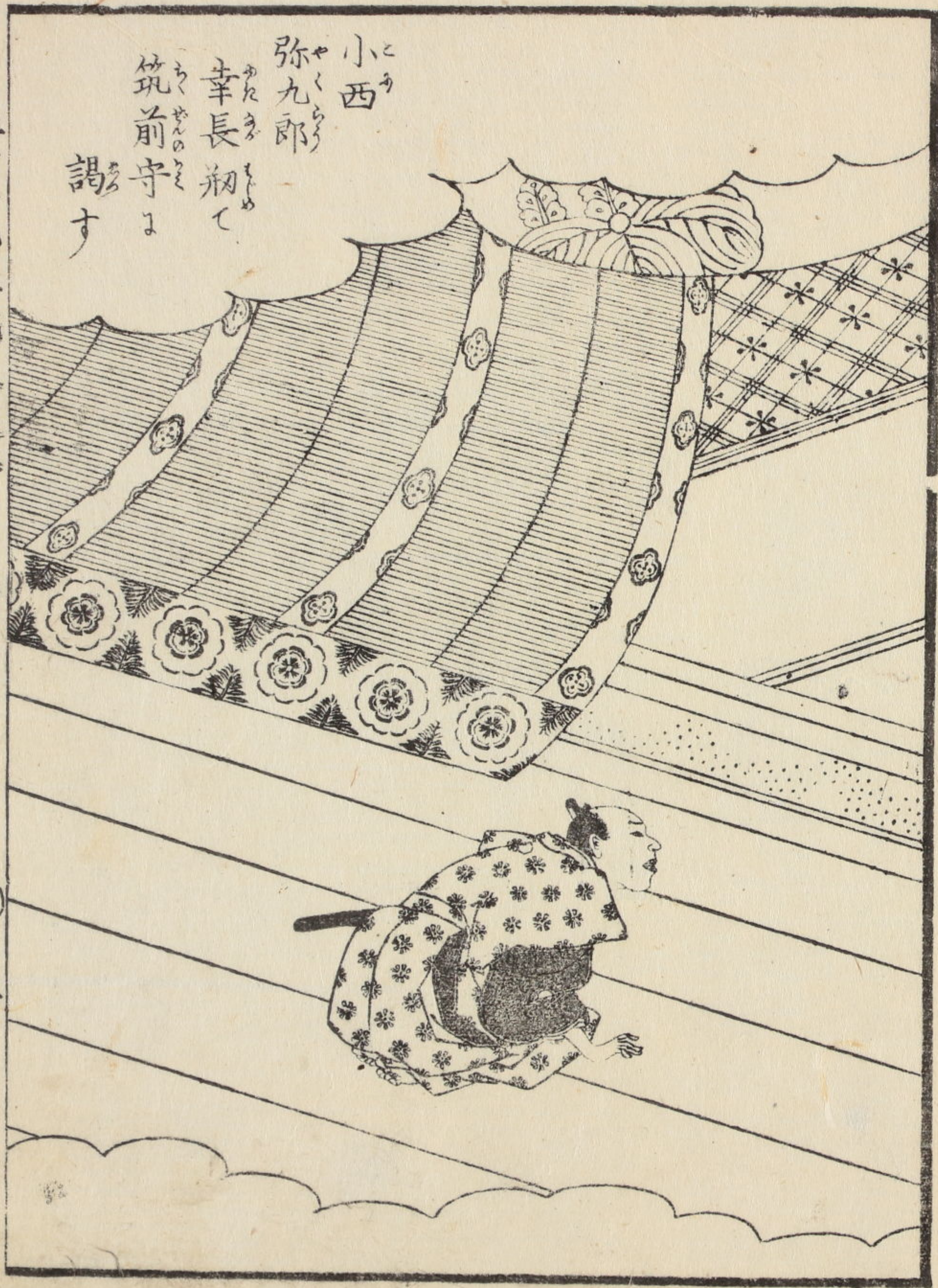


小西保九郎謁秀吉約仕属重治遺言

螺獅苗生と金うらうら大海に帰さる响ハ苗奥と成て登天すうや。然
ハ小西保九郎を高家の中の者うら。目今浮田家の使者とせり。其
軀を美しくお扮す。播州平山の陣小おむさ。浮田直家が使者うら
う。筑前守に普通せうら。秀吉听て速悟。定めく降参の使者
うら。ん小見参させよと呼投る。保九郎臆する氣危もあ。秀吉は
に投身し。筑前守保九郎がその品の賤かぬと骨棟の俾へり。其
く復ま六御扇着たる相顔する由急詞辭に問う曰く。うら。うら。まの
何ううら。和泉守うら。使者と達し。七折汝の姓名と听まりや。といふ

と誅九命者やくらうしやう一々ひとひと言らくことば小夫こおとこのすまへち浮田うきだの家人かじん小西こにし誅九命しやうくじゅうめいとま
 うと者もの主人しゆじん直家ちか遠遭とんそうあつた小織こおり田家ぢかの旗はた下に属ぞくせんせんとあとあ小夫こおとこと
 りて使者しやたじむたじむ怖おそく荒州あらしう公こうの河吹かふき嘘うそと信たのまされまされとあとあ人ひと河原かはら
 添ぞうれややつらつらとととと細約こまやくく細舒こまゆるる疾はや吾所われところて願ねがひと傾かたけかた直家ちか自方みづかたに降くだ
 せんこと殊ことに神妙しんめうなりとなりとともとも最前さいぜん右府みぎふ殿どのめさめさとと割願わりねがその河下かは
 細小こま随まへ却かへて遭次そうじ款對くわんたいををととそれのそれささららびび毛利もうりと内うち行ゆく上うへ
 月つきを攻せめくあ尼子あまこ城やしろ亡やぶれれ自軍みづぐんの脅おそむと滅くせせとと是會こゝろ浮田うきだ直家ちかが
 初はつると後のちののち不為なああるるびやびや吾苟われごとも探題たんていととて中國ちゆうごく邊へ治ちの命いのち被ひ
 里さとゆゆづづ當國たうごくの別所べつしょをを征せいくく然しかして兵作へいさく儀ぎ前まへに臻いたりり一番いちばん駈かへへ直家ちか
 を敵たかくたか藝州ぎしうすすも進まずず人ひとんんど分ぶん撥はくををに極きまめてめて別下べつげの滅亡めつじやう近ちかに
 にありにあり次第しだいに浮田うきだの身みに及およぶぶとそれと幸さいして兵へいと通とせんせんとあ

隊たい参さんあり人ひとが直家ちか平生へいぜい銳心えいしん深ふかく表裏ひょうりの武士ぶしと聞き及およぶ然しかとそれ
 目今いまハ端はた服はくををととと亦また及およぶ事ことありぬぬ也や吾身われみ不ふ屑せつありとといいと
 も方まに西國さいごくの遣補せんぷ使しとて勝敗かちあひ總すべららく吾身われみに管くだささり遠上とんじやうささび
 く隊人たいじんの實名じつな弘明こうめいささとんんバ君きみ一言いちごん状じやうありありとと汝なんぢを使者しやの命いのち成
 承うけりこれこれをを来きる材さい覺かくありありとと向むか後のち主人しゆじん直家ちかが及およぶととの證あかしありや
 不ふ存ぞんと告つれと問と答こたへへるる小西こにしとと勝行かちゆきありあり隻頬しやくがほに笑わらひひて影かげハ意い
 任まかぬ詞ことばと听き織田家おぢだんかにかかいいく荒州あらしう侯こうこそ多智たぢ寛かん勇ゆう鬼神かみじんも歌うたく
 自將みづかたなりと兼所かねところああびび一いつつ目下いまの命いのちせせ六む聞きくくに遠とく未練みれんありあり然しか
 て我國わがくにに將かたととるるもの誰たれも不志ふしののううららううととんんや各時おのづか運うんととははささ
 ううららふふささららふふ伏ふしし廣ひろささに勝かちち稍せう天運てんうんの臻いたるるを後のち主人しゆじん直家ちかも又また
 然しからら備作びさく二州ふたしうの領りやうととててままもも多おほく糧かも足たりりり雄名ゆうなも他ほかに下

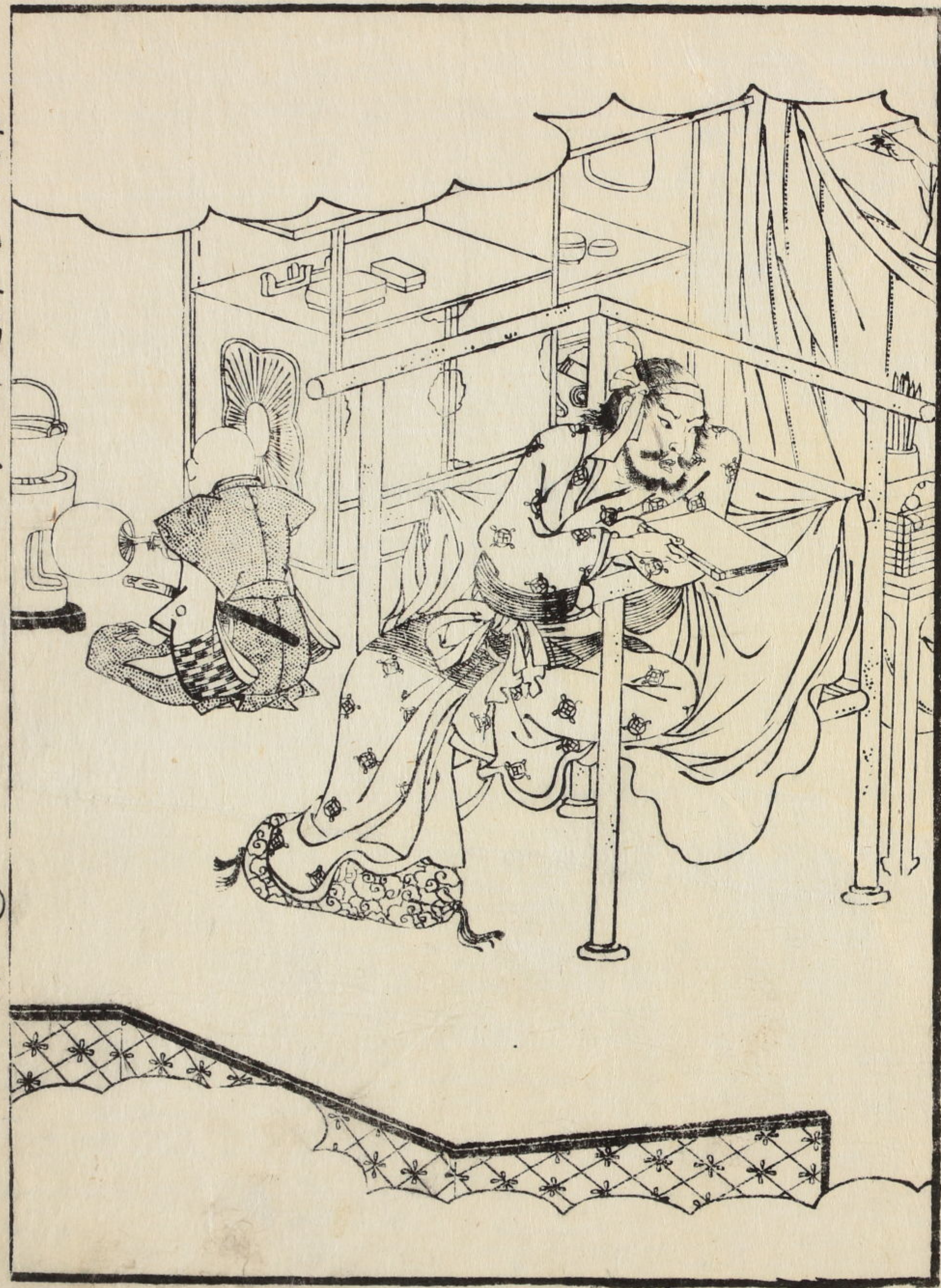


に出だ。然ども口方ふ大秋ありて。始終全に律雅なれば。近年毛利
 の旗下に属せん。其人として信義あく人ば。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 小随ふら。いかく粉骨の勞と勤し。屢誠忠とあり。武門の道ふ
 作らば。去奉威田家に秋討せ。武家の信義たをさる。二に六を要
 公小峠服の意ありといふとも。一戦も遂び互の弓矢の強弱も試み。跡
 へ大丈夫の不屈にあ。同て武家一場の弓と引ま。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 の理と泰し。永く威田家小峠せんと秋し。今既に毛利家の約ふ背いて
 安去殿に降る。天道とわさる。然るに猶も疑ひ。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 證。堂子せ。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 とも。中國征伐の魁軍とあり。秋の別郡と頑執て。日領小忠。信
 義たち。いそぐ大功と成せ。武家毛利

舒連ぬると秀吉介て。その辯言に感をせ。いかくも汝が重きところ
 一理ある小峠せ。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 か。初ては。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 たる。是武家が。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 たる。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 と。勢むる勇と。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 即地小水智と。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 明。いそぐ大功と成せ。武家毛利
 といふも。いそぐ大功と成せ。武家毛利

史小西如清が息子に過はる永禄十二年。堺の町人一掃して。安土
 殿に叛せし機合。君六つ年と本下と名のせうひ。堺の津小役せ
 らまへり。其時小史十一歳に。茶菓の給仕し。まへり。然るも小
 史知能あり。今壮年の漢士あり。相識已前。ふまへり。とも。津
 親徳へあるべし。と。おとふ遠る。津服力。給は。憶。した。記憶。ふ。く。は
 中。と。と。也。遠。遣。使者。に。奉。上。し。こ。と。六。那。殺。之。新。事。と。と。自。己。身。の
 上。直。家。が。料。酌。中。を。と。若。年。り。海。て。重。し。出。る。事。今。遣。直。家。が。降
 参。と。よ。に。小。吹。嘘。を。く。く。小。史。初。め。く。直。家。が。後。及。せ。ざる。證據。と。出
 させ。言。を。な。し。和。衆。と。い。兄。弟。あ。ま。ま。と。も。心。一。致。せ。つ。ら。う。人。子。ら。に。後
 て。一。族。より。養。子。う。さ。せ。て。其。名。を。淳。田。と。稱。し。稱。へ。家。督。と。稱。る
 處。り。と。其。後。男。子。出。産。し。て。こ。と。と。淳。田。八。希。と。し。直。家。これ。小。家

國と相識るべき意あり。かく秘花の子息有るを。遠八希と號として
 捕らせのまへり。及び。及。と。る。こ。と。の。い。ま。と。心。底。蘊。す。は。述。る。に。七。秀。者
 大。又。喜。悅。す。賣。夫。に。似。ざる。言。語。量。材。故。臘。の。武。士。小。も。芳。ら。ぬ。壯
 士。願。で。以。実。事。と。重。せ。り。か。ら。ぬ。小。免。と。て。直。家。が。降。参。の。向。と。速。に
 直。家。へ。言。状。を。上。り。れ。を。方。僅。謂。と。る。為。の。質。と。り。て。登。即。織。田。家。へ。出
 せ。し。有。係。に。我。も。汝。が。智。勇。と。傾。心。を。す。を。感。ず。り。淳。田。小。史
 する。約。を。せ。ざ。ん。ば。君。小。史。へ。武。士。依。縁。を。功。名。と。せ。ふ。遠。さ。ら。や。と。最
 信。切。く。ま。り。ま。り。を。淳。九。希。大。小。欽。躍。か。く。小。史。素。より。筑。前。君。は。仕
 ふ。ま。の。の。執。心。あり。よ。に。小。史。を。せ。り。人。の。か。と。内。外。とも。に。密。談。し
 つ。也。謝。辞。ま。り。して。備。前。に。歸。り。ぬ。是。天。正。七。年。六。月。中。瀬。の。濱。あり
 一。秀。者。淳。田。が。降。参。と。り。て。安。土。一。注。伸。の。準。儀。と。ぞ。る。し。つ。り。なる。



竹中半兵衛
 命終らんとす
 金言せり
 秀吉に
 教示を



さてまゝ。竹中才兵衛重治過はる六月の末より暑に犯されてうち
 那るが。次取小疾病重なり。命の量もおぼろしく。近來へかき暑
 氣酸しく。病若深増く見えたり。白念秀吉これ小心悩む。浮田が
 降参の注伸も。等閑にして晝夜と頷ぐ。さうさう病の榻小極儀
 一。初抱まると切なりしが。重治あつた不起整つ。筑前守に回封て
 つやう。是下浮田が降参と。河次謀ありしとさう。遠美ハ是非不信
 長一伺言む人をあまのくび。假令浮田より人質と送致さる。其
 案と躲し置降参の法さす川る。言状ありたを諱ふる人乃更方
 僅既に死あんとて。命露一夕と有が。これ小固く是下のよめに
 一向と遺安人と歎き。従前病程を胸考得る事ありて。心よ愈々
 く記得置し。主張て覚悟もあつた人。平生これを意不掛く

身の禍災と避く人。一書と出して。避与たれば。秀吉教行の泪と社へ彼書
 とあむ。ひ推裁に。我輩股の初より。是下の教誡を被ること。年々を
 くるりとし。とを遠に。新も遠きとさう。得あることも。教はる。及んば最
 期に。錢さう。其金言とつぐん。有さす。と。不問や。ある。呼稀切。一紙
 切し。と。繕あつて。因見し。莞尔と笑さう。学とあり。賢者の。衆。誠小
 志。り。我も。此意。執る。さ。六。何。縁。と。今。般。の。事。ハ。今。一。か。り。と。と。主。張。め。し
 頑魯さう。方。僅。先。生。の。誅。書。と。関。一。行。一。字。機。腑。に。徹。せ。り。い。か。し。も。係
 に。随。順。せ。ん。と。涕。涙。と。と。そ。に。巻。収。め。拜。謝。さ。る。こ。と。時。を。過。せ。り。今。竹。中。が
 遺せし書ハ。自智と。りて。自行せ。能く。君。の。威。を。備。て。悉く。征。伐。を。遂
 の。人。系。信。長。の。生。質。さ。う。と。懸。系。に。誠。を。單。む。が。後。一。小。事。な。れ。ど。も。心。に
 咎。め。く。百。遺。の。功。も。虚。と。さ。う。人。只。平。生。の。小。心。ハ。誰。陰。候。が。醜。道。と。昌。后。が。た。め

に嘗らざることあり。禽獸盡く弓矢折らば國滅び謀臣謀せ
らるべし。信義と絶して書記の秀吉を以て悦喜せし愈
増く扶助せし。重治病悩を去りて。終る六月廿二日行年四十一を期
とす。播磨平山の城中に於て誠意正念に於て卒去す。先帝
を以て加賀福清片桐倭悲哭を以てこと七皇後師の禮とす。厚く
葬す。追慕懇切小吊ひたり。後小幡むねと英雄ありぬ。

中国勢贈糧三本城陷計属賀相敗軍

虎ハ千里と遊るの能あり。龍ハ九天に登るの徳あり。竹中重治が死期の
遺後々その徳能と誠がふあつたれども。只朋友の信を以て。彼後代
通ふ傳ふるのそ實に承頼りしやうごうんや。然れども秀吉ハ竹中重治
傳が遺贈と信り使者と去て一向て重治が病死を告道家が隊衆の

事を伺ひたり。信長一町しり。竹中が卒去すと大に哭し。弟之伴と兄
に代らせ。播磨境へ下行せしめ。筑前と一返詞して。中国一圓の禰てよ
里秀吉に任せしむ。これよ料簡中よりとてはし。竹中が命せしむ。久
保重友命と奉く。此地に播磨へ下行せし。彼意とて秀吉が傳
へて軍事と助けし。備又ハ西泳九帯ハ備前と一返詞して。直家猶豫の辨
始終と。蛇小足添き。門禪人質の事と言費り。直家猶豫の辨
りし。六泳九帯勝を進めし。曰。八帯君と人質と志すふこと。秘藏にす
まひ。初君由志。これ誠信の顯る。とて後あり。刑や秀吉。當せしむ
と厭ひ。心。美心ありと疑ふ。遠遣人質の事。以て竹中
安ら。八帯殿と出し。小夫勝扶す。ゆめを。た君と敵。是は着儀
し。まう。人。其上。安と。一行。ま。む。播磨。小。め。そ。ま。る。中。量。簡

中よりとて、孫九郎身不肖なりといふも忠義と過しては復する可
 へ激も痛心す、ゆを登るべ。始終羽柴が陣中も在て、白面へ膝扶け中
 に見せうけ、黒宵に、間者となり、まのを陣中の勅揺上方の風陣仔
 細に注伸さうき、と利言ふ信せく、舒るに、直家渡り、蒼澤
 あり、大澤若量の壯士なる、汝が勅め、不同意ある人と、愛子八郎と人質
 として、孫九郎成膝扶け、播磨平山へ送りし、秀吉、悦び、意を属
 せり、我子の如く、執待たれ、小西孫九郎へ頼て、君長に、我を
 約せしこと、由急、膝扶けといふ名を、うりに、信義ととりて、秀吉、小仕
 へ、わごふ、筑前も、才智と感、加、後、信同然、不、深意あり、備用と
 命、つくる、其、後、進、家、名、代、て、嫡子、與、大、希、基、家、と、筑、前、も、導、助
 して、安、上、と、せ、信、長、登、而、對、面、り、て、中、領、安、途、の、米、中、と

賜、歸、國、の、後、ハ、毛利、家、一、款、對、の、見、見、人、と、盟、約、お、し、て、歸、せ、し、六
 果、して、その、後、と、做、や、ふ、毛利、輝、元、大、怒、り、浮、田、と、制、し、乳、を、や
 と、既、に、軍、と、發、前、人、と、然、る、不、秀、吉、の、指、差、う、て、浮、田、の、長、臣、是、誠
 希、ち、と、り、り、台、門、の、下、南、條、伯、耆、守、元、次、小、鴨、左、衛、門、進、元、清、等、前
 推、ら、せ、を、ま、い、人、忽、地、織、田、家、に、歸、屬、し、領、國、不、信、る、款、也、來、り、噪
 動、容易、さ、う、ざ、う、な、れ、ば、浮、田、と、責、る、體、な、く、増、て、播、磨、の、別、不、扶、也、ま
 と、播、磨、の、義、本、と、敵、ふ、力、の、及、た、ざる、際、不、續、援、の、通、路、絶、果、た、ま、不、秀、吉
 村、重、も、伊、丹、有、忠、の、誠、不、在、駟、さ、う、の、尾、ヶ、崎、へ、を、退、さ、さ、る、是、八、月、廿、二、日、備、又
 播、磨、之、本、の、誠、不、ハ、決、漸、く、に、威、勢、衰、へ、を、糧、も、稍、匱、な、ま、毛利、三、家、に
 援、兵、と、且、夕、待、と、い、ふ、と、い、ふ、も、其、音、耗、さ、る、り、し、六、將、率、備、に、お、り、て、信
 忠、然、る、不、遠、春、中、國、より、別、不、家、扶、漢、の、を、糧、と、夥、く、積、せ、見、出、兵

右史同内務丞にこれを衛らせ。播州魚沼を縮くせり。秀吉は
 よりこれを悟り。道路を蔽く断絶をば。使しく安藝へ返りしるが。
 懐六甲斐の兵動静を。なほとて城中へ通し合せ。暗号を定めしこ
 本城へは糧と運納を。と存び魚沼に船を騎せ。九月九日の夜を以
 て兎玉が方より二本城へ密使を遣て十日の夜月四時家へ傾くころ。お
 の方より平田の宵谷谷大膳が陣列を破り。然して去糧と納べき際
 烽火と曉りに城中より。而地小擾を費られよ。内外齊しく搦起
 を。車十分は洗足と。と粟送る。伏別長治執銃でこれ又同じ
 當夜情に地小指揮を傳へ。豊後市之進。去橋を平次。淡島辰次。門
 小百有餘人の去と。傍三本城を潜せ。め魚沼の溪に到り。中國
 勢と謀合せ。八千餘人の去平に兵糧を持撥せ。その儀着として生

金平山
 如本都
 一里半
 余

平田の此
 八三本の西
 十丁半に在

石中勢野兵去。兎玉去。大吏より。二本の導知者。手渡。渡を云
 橋が百餘人。九月十日の夜。才天。豊原。室山。とうち過く。二本の城中
 に。投人。と。然。不。羽。柴。秀。吉。が。操。安。た。る。傍。寨。の。う。ち。南。ハ。要。崖。堅
 固。され。バ。容易。破。り。う。う。う。の。方。ある。平。田。の。傍。寨。谷。大。膳。盛。好。が。守
 する。隊。列。へ。安。藝。の。大。將。生。石。中。勢。送。兵。五。百。餘。人。と。率。し。子。の。才。刺。と
 頼。る。ころ。平。田。の。小。寨。小。推。進。る。遠。路。に。城。へ。兵。指。と。運。納。人。と。辨。り。此
 ける。が。生。石。の。諸。兵。に。喊。と。奉。さ。せ。一。時。小。破。ら。ん。と。搦。起。る。る。由。也。城。中。大
 に。噪。初。る。う。上。と。下。と。と。動。揺。め。さ。た。け。城。大。將。大。膳。智。勇。具。足。の。勇。士。お
 れ。バ。噪。ぐ。士。率。を。制。止。す。我。今。進。兵。伐。斬。防。久。人。其。際。小。城。中。隊。伍。と。立
 よ。と。送。兵。僅。小。女。四。人。と。率。送。一。箇。風。を。開。く。突。費。す。正。魁。の。款。と。一。郡
 を。わ。り。難。起。搦。伏。殺。倒。し。る。其。勢。に。中國。勢。頼。葛。兵。渡。二。度。まで。返



中 國 勢 大 勝 々
 谷 大 勝 々
 欺 三 木 之
 城 中 へ 兵 糧 々
 容 々 大 勝 猛 戦
 毆 死 寸



今之為る... 木の門... 合点軍... 大村... 平田... 防禦... 準備... 機舎... 櫓の門... 城門... 近... 連

返以。志うりことごとく敵を八十倍ありける大勢ありければ被盡すこと能はば。一遭城に退入らんと。退者と備めて退くと。敵の大勢退き来り着投し。せんと構めたりゆゑ大抵着て扱て返し涌が像に敵中へ車輪の像。近投て。前後左右際際もす。常不常と構を以て。滅多お小殺し。多まバ累懸流血地と見え。花炮突又天と威を。これがたあ小中園勢。被死人多しといふ。交代勢数多ければ。小勇り大格も。鉄石す。神志牙と持たせ。乱軍中に腰換次。さうう首刎零しく。深くこそ戦損し。これ遠際ふり。この兵糧と平田の宵途より運来。里之苗兵村の小嶺に登り。暗馬の機廻と揚たれば。二本城中に大。内山城守之子餘誘と。たへ久苗兵と。當て扱出を。備亦平田の城中。防禦の準備と。さうたる機舎。その機舎。櫓の門。城門。近。連

今之為る... 木の門... 合点軍... 大村... 平田... 防禦... 準備... 機舎... 櫓の門... 城門... 近... 連

味を攻着ること急なること。落へ大將大膳死と。若る者あり。多ま。形てハ。防戦愜も。と秀右。陣へ新し。其と。所より。流石。右。時。小。加。勢。を。人。を。あ。ら。じ。然。ど。も。時。境。小。勢。に。く。秋。中。の。事。と。い。ふ。せん。只。方。洲。に。ハ。如。屋。々。と。一。子。作。誘。す。秀。右。と。つ。う。久。苗。兵。と。當。て。絶。々。と。彼。率。と。諸。而。の。技。塞。へ。遣。し。五。十。人。す。れ。百。人。す。も。魚。淵。の。濱。へ。着。て。中。園。勢。の。名。船。と。奪。取。辨。と。つ。つ。大。船。と。指。揮。を。傳。へ。て。舊。地。に。平。田。の。城。へ。絶。着。着。れ。バ。捕。獲。た。る。中。園。勢。大。水。に。た。れ。と。一。城。と。息。と。を。次。せ。ん。攻。起。ら。る。が。子。成。飄。と。入。る。り。も。ま。ま。や。後。面。が。出。陣。し。ら。る。を。機。で。段。と。前。渡。す。り。喊。を。作。り。て。探。起。る。秀。右。これ。と。快。喜。し。先。や。久。苗。兵。と。三。本。に。際。と。防。戦。を。下。知。と。し。蓋。坂。の。頂。小。懸。躰。と。一。千。餘。騎。を。固。く。列。伍。す。一。文。字。に。証。あ。ら。し。大。内。山。城。守。賀。相。が。子。餘。誘。に。突。て。免。る。賀。

平田の
小寨を
救ふて
秀吉
大内
大内賀相と
敗る



豊後守 秀吉 大内 賀相 大内 賀相 大内 賀相

大内 賀相 大内 賀相 大内 賀相

相隊後と翼に閉じ推捕搦人とす。くろく成流亦もさうも。碍擬せは。
 る。い。う。く。心。魁。小。馬。と。駢。め。宛。圓。石。と。靦。を。を。像。く。山。上。より。征。下。す。竹。葉。
 の。如。き。歌。中。と。十。字。に。刺。く。突。倒。る。し。巴。字。小。遠。り。て。輪。殺。し。鬼。神。の。像。
 く。怒。喝。さ。る。へ。加。友。後。傳。片。相。敵。り。天。狗。の。像。く。飛。裂。さ。る。へ。降。演。が。
 極。尾。獨。坂。敵。り。遠。猛。勇。に。駢。の。三。木。勢。忽。地。血。場。に。獨。顔。され。怯。氣。
 起。く。ん。え。る。は。を。秀。吉。大。小。聲。奮。立。敵。の。令。く。敗。風。を。さ。す。い。ま。一。探。し。て
 被。盡。せ。懣。め。や。も。ゆ。め。と。呼。り。喚。さ。る。最。上。一。筋。く。下。報。さ。せ。諸。勇。士
 涌。出。く。獲。起。吹。起。突。立。を。二。三。に。攻。着。り。り。由。也。三。木。勢。を。り。め。ら。ぬ。る
 處。に。右。横。た。撲。小。散。れ。け。り。浅。山。城。を。躰。断。と。し。さ。う。く。禰。と。推。把。て
 進。撃。敵。と。搦。鳴。し。汝。敵。く。我。逆。く。糧。を。め。と。結。ぶ。り。我。門。に。生。れ。く
 俄。死。さ。る。と。本。意。と。さ。う。さ。う。え。さ。る。吹。地。軍。一。旅。の。小。隊。さ。る。と。何。を。怖

さ。く。逃。惑。不。返。せ。度。せ。と。指。揮。さ。る。は。を。統。勢。こ。ま。に。懣。ま。さ。れ。る。は。死。る
 も。回。つ。ら。が。く。俄。死。せ。ん。よ。り。の。斬。殲。せ。よ。と。與。呼。人。が。浦。部。を。中。に。統。と。一
 装。秀。目。の。奥。淵。源。た。當。門。と。い。ふ。の。さ。り。群。を。扱。さ。る。別。勇。を。志。さ。る。情
 形。と。經。緯。あ。し。氣。質。活。き。者。さ。る。あ。も。浪。東。義。遠。羽。柴。の。陣。中。あ。る。い。い
 諸。番。の。技。案。一。階。投。て。敵。を。毆。と。屢。度。さ。り。初。々。と。ま。と。毛。知。さ。り。じ。が。
 隊。衆。の。軍。の。者。さ。る。ふ。り。源。た。當。門。が。所。為。さ。る。由。各。こ。れ。成。く。知。れ。秀
 吉。渠。と。大。に。懣。之。諸。陣。小。洶。く。魚。淵。と。毆。提。登。し。と。指。揮。あ。る。と。こ。ろ。ふ
 月。前。心。魁。に。執。て。返。し。奥。淵。源。た。當。門。と。呼。さ。り。て。奮。勵。さ。る。と。看。り。り。も。
 敵。は。活。後。さ。る。魁。魁。さ。る。を。敵。を。毆。と。聲。に。い。ま。り。く。八。方。り。餘。節。間
 法。く。り。て。推。提。搦。激。慶。に。せ。ん。と。責。起。る。と。奥。淵。更。に。殊。と。ま。せ。日。來。に。信
 せ。一。勇。を。顯。さ。る。百。振。子。動。さ。る。や。ぶ。よ。の。暴。激。に。當。り。さ。る。撲。む。と。た

右のこをまじと堀坂甚内顯出大を力りて謀合せす响をり闘ひて射
 争う存て見ええらると堀尾右膳は来り甚内小臂力を勸せ三人六臂は
 奮とせと輪轉流波小我ひらると二本の陣より振橋保平懐突みし
 堀尾右膳に撃て蒐る右膳はたりと奥淵と堀坂原流小任せを振橋
 保平市に謀合は虎躍龍の威とありは二三十合戦あり備亦奥淵
 源内門に保長に搦れども筋力次第に懼り来て周臂とありて水逆は
 甚内これ小氣と懸はたさゆく逆に源内門を斬り逆はこれ大橋
 の款を色首と毆て六慍とくと源内清つが首檢誠大を声に呼りり奥
 ころ秀右の實檢にゆらりまらる堀尾右膳も振橋保平を昂地
 棚伏せ澄小首と檢別て流に貫き欣然として返返を其外加後傳
 所相おのけ激し我をも二本方若び頼起遠响平田に攻蒐尾生石中勢

とをりめうして是流波を去橋の門久る兵の軍危ふくと聆先救
 えんと羽柴の隊列の肖頭より喊と作く攻蒐を山城をこれと人
 て諸勢と懸す前ほより接合せ人と轟めれ起羽柴の玄軍退返
 して肖頭と防人となりたると秀右側の大巻は後款に心を累
 ん食一文字に突費して前ある款を歩破是中國勢はと既小篇
 弁に入たまば自滅する事必定あり進め進めと呼り色は一向中言を
 命に肖ぬ使率們ころえとと面も觸び二本勢に怒潮の如く突
 く蒐る後より進来る中國勢は今秀右が大巻に下知する詞の指
 終とさく頓て智謀の大將と懼怖る秀右は色はいひある奇計ある事に
 やと心迷ふく進得は橋縁をくく機舎こそわ是那山遠谷の扶塞よ
 り後走に此来る中村保平次官於長佐房加後此内淺野保去清海喊

と叱りて横隙より突薙はく聲々に明石真淵一擗倚たり。歌船ありて
 奪提され。自方十分の傍利あり。進めやまめと叫りたり。これ小ま
 まく中国勢撲らんとく後一漢方あり。毛利の彼卒走來り。歌名は及
 と驚い出。自方の船と糸投んとん。事急る事一救もせぬと告げにん。
 中国の諸士駭噪。船奪られし。慥もど。生石とくめ野矢見を
 慌忙と返さふ。兵糧と運ぶ車牛も。借よかたらん糧と裁たる馬
 車さふ歩奔く。哨方らんと。礼走と中村官部の軍勢ハ中国勢ハ崩
 ると。所顧もせなく。二本勢ハ銚鉦そろり。一擗擧る。いと。敗風さる三
 本勢。恃と断たる中国勢ハ。途と失く。彼走く。他軍ハ。漢兵かたり
 ていふ。雄氣杜るれば。こま小歌も。こと終る。總收軍よ。せか。び。る
 羽柴が諸勇士追薙。分捕る名さぬ。ぐ。なり。あ。は。な。小別。取。方。殿

死する者多うりたり。山城守も危ふりしと。名と清ふり。勇士等ハ。實
 相小易りて。我死を其門く。小大内基。大吏同。大吏那波。た。を。監。三。枝
 小を帝。高橋平左衛門。三宅与平次。小野。持。た。城。門。砥。堀。深。を。使。悔。り。遠。際
 以。大。内。基。相。の。城。門。測。し。を。退。さ。る。代。羽。柴。秀。吉。を。い。く。指。揮。か。し。着
 投。ふ。せ。と。接。ぶ。り。亦。も。危。う。り。る。所。一。漢。河。彈。正。名。定。範。城。中。に
 響。て。癸。山。城。も。ふ。り。か。り。て。進。來。る。歌。と。防。止。め。難。あ。く。賀。相。と。退
 取。ら。せ。彈。正。も。す。其。場。と。ま。り。其。兵。一。軍。と。七。添。く。我。死。し。り
 秀。吉。今。の。是。中。を。り。と。種。と。鳴。り。て。自。軍。と。纏。め。凱。歌。奉。て。隊。邊。に
 攪。さ。び。志。づ。く。と。凱。陣。く。り。新。く。亦。生。石。見。玉。の。中。國。勢。ハ。慌。忙。と。平
 回。り。真。淵。の。濱。小。集。り。見。玉。ハ。羽。柴。の。軍。勢。ハ。方。り。お。ま。ひ。く。小。出
 來。り。夥。の。船。と。糸。投。ら。んと。中。國。勢。ハ。取。ら。せ。と。我。先。小。と。船。小。を。後

ると羽柴が緒勢ハ故意と初揺めさ。中国勢と悉く。飛ぶ急しめ。厥ハ
撃手祭せと指揮のあり。冠隊の各統教百挺。霰の像く撃手蒐し。かを
生石見玉像し。あり。得ば。櫓楯と。やめて。逃去たり。

別所滅亡秀右圓陣掃討屬築城姫路

一步と過失と。凡八千里と。弛ること。能く。諸も。二本釜山の城中に。伏
ふ。恃し。勇士。三十餘人。敢死せ。今城中。又。残ること。僅ハ。僅十
人。小足。さう。られ。存び。我ハ。威勢も。あり。賸。毛。利。より。福。し。れ。る。糧。を
納。得。る。こと。祿。も。却。て。羽。柴。が。ため。小。奪。え。れ。困。窮。い。め。極。中。り。て。落。城
且。夕。に。登。び。け。り。秀。右。既。小。遠。鏡。蹊。と。り。雲。あ。り。二本。城。の。隔。落。程。ハ
あ。ら。じ。橋。も。款。の。機。と。奪。え。ん。と。言。方。り。り。り。扶。塞。の。為。據。と。成。り。近。く
憑。杖。二本。城。内。を。沈。視。さん。ん。南。ハ。八。幡。山。西。ハ。平。田。西。望。北。ハ。長。谷。川。より

八幡山
平田の
長谷川

大戸田
川

東ハ大戸田の急まで。轟くと。既。控。され。二本。城。地。と。今。も。其。際。又。町
に。過。ぎ。り。り。結。塞。の。嚴。う。る。こと。據。障。ハ。一。丈。有。餘。あり。こ。を。二。重
小。結。統。し。揚。楯。心。樓。と。障。へ。さ。を。北面。ハ。柵。産。南。垣。と。敷。き。結。ひ。門。の
面。に。ハ。大。繩。小。索。と。味。多。小。張。控。札。楯。と。我。連。孫。橋。の上。ハ。大。衝。車。と。か
き。性。來。の。人。と。さ。び。し。く。紀。洞。十。路。と。都。と。禁。扉。と。楯。内。ハ。六。段。の
諸。軍。勢。が。陣。層。と。綿。く。と。遠。並。へ。夜。ハ。燈。火。の。形。張。る。く。延。柄。と。う。ち
鳴。し。板。人。刻。く。に。懈。り。ま。り。加。后。福。傳。片。相。傳。一。町。交代。に。これ。と。獲。り。
水。漏。さ。と。捕。圍。む。る。を。二本。城。中。ハ。密。使。と。も。通。る。る。と。路。を。之。
嘆。息。し。果。く。忙。然。たり。其。八。關。を。榜。別。る。伊。丹。の。城。を。荒。本。橋。津
吉。村。重。ハ。八。月。廿。二。日。の。夜。有。星。の。城。と。潛。出。尼。ヶ。崎。へ。落。行。く。が。蹟。ハ
荒。本。が。一。族。妻。子。城。と。あり。て。あり。り。る。に。十。月。五。日。の。事。あり。し。が。瀧

秀吉
諸隊
謀合
三木の
城を
攻極
る



豊臣記五編卷之三

廿



豊臣記五編卷之三

廿

川一益智謀をそらく有呂城中の武士中西新八郎と陸泰を捕
 も中西に謀合せし。星野左衛門尉山部加賀守同孫丈火燵と帰服さ
 せし也。同十五日の夜小島りて。瀧川人救之上福塚を曳曳揚させ街口と
 三かを捕て。こまこと悉く焼拂を色逆ふ素を城とる。いかにを城兵が
 らく困窮する。响ふ信長使者とそらく。荒浪尾ヶ崎の両城に三三
 やふ用様さ。荒本か素子の助命を乞ふ。粟送らる。といふも村重
 更に送られ。織田信澄と決りて。有呂の城と素提せり。然し城
 中に留りたる。從頼男女二子餘人。さびしく殊戦せし。三本城中
 の将率階ふ。その風聞と傳所。身の色と登て怖る。備亦羽柴秀
 吉八幡山より三本の城と。洗くくして視却はふ。其糧もえ。盡る。糧
 ふく。情断する。勅許なれば。一孤して。屈後を乞ふ。同く十日未外に

南の捕へ入救とつけ置山下と廣く放火する。ゆゑ舎并秀長に多勢
 と授けく。秀吉の尾に城と攻させり。小城中初く困る。れば。適きぬ。初
 と覺悟する。會自害して。頭くりたり。秀吉の申し。三河より進。山城
 吉賀相が守り堅り。新城と。單騎急に攻起り。小賀相一戦に。及
 をびして。三本の本城に逃投する。左右小浜。歳も。晩果く。天正八年の春
 と。近ふ。差にかつ。筑前守。時今。まを。小懸。たり。と。城中。使者と。遣。し。
 表を守りの。大ね。に。と。そ。く。そ。士。と。救。ひ。新。年。不。朽。の。末。は。で。え。未
 休の。汚。名。を。残。さ。る。恩。慮。を。祈。り。ま。わ。り。れ。と。懇。切。と。竭。く。て。彌。遣。け
 る。に。七。長。治。大。小。威。快。を。申。度。く。進。取。之。と。招。き。秀。吉。が。粟。送。り。來。城。に
 道理。を。極。め。り。若。と。汝。と。賀。相。と。遠。三。人。の。生。害。を。一。從。者。士。率。と。勅。得。さ
 せん。汝。が。こ。ろ。い。ふ。と。い。ふ。友。之。荒。束。と。歩。美。ひ。有。係。の。別。所。の。嫡。流。を。り

終に其下意の属せり。小舟も一願の存とこれと粟出を
望つるが實に大漲あり。大仁こそ。既小舟覚朝まうまはる。八登即相
秀吉に。那と通達し。之か。と初め小長治安堵あり。然らば汝書翰と記
得。遠傳と能くせよ。これ。能書の卷ある友之膜様とてこれと書と次
小我父ある。山城守賀相と招き。この門禪とら。つる。賀相心小深されども。
長治友之の覚朝小愧て。心づ。びも同意せり。友之書翰と記得。宇野
卯右衛門にこれを齎らせ。浅野孫兵衛陣中まつ。つる。長政別不
の使者と伴ひ。秀吉の前小披露。其文言と讀上。色バ

從去々年來敵對爲做。參候事其所謂非無。今更
不能述。素意是。僉時節到來運命之所極。至此何
可。嗚。臍哉。只望長治及友之賀相之三個來。十七

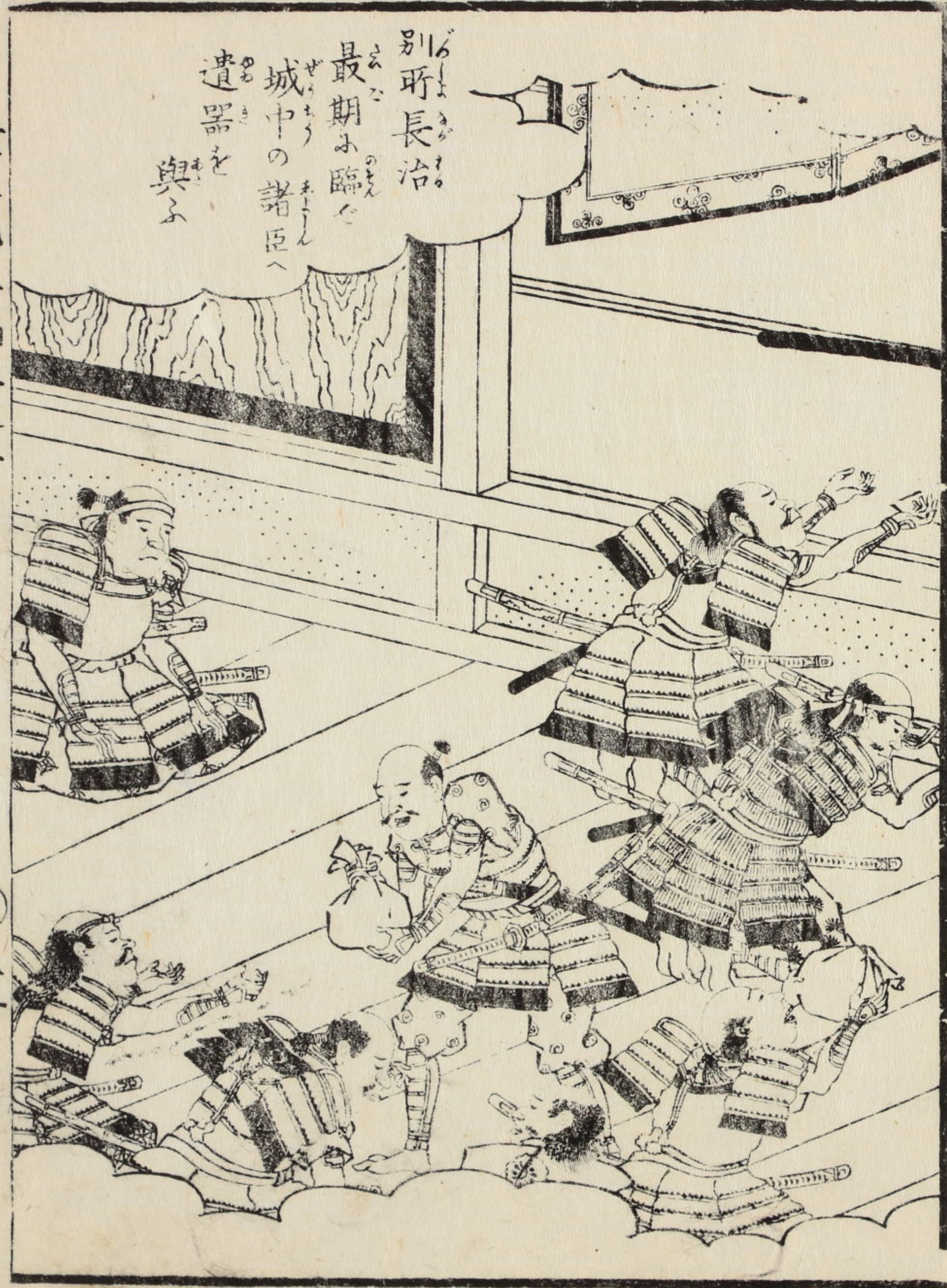
日以申刻可致切腹之間所殘士卒無咎。刎首者
誠以不便也。怖。垂憐愍。而被助者我々生々世々
歡不可過。此候此旨。具賜披露者也

從五位下彦之進友之
從五位下山城守賀相
從四位下待從 長治

天正八年正月十五日

淺野彌兵衛殿

秀吉これと聆り。里洞と流。七感歎あり。兼知の趣返書とて。之め
芳博十荷佳肴十盤と。り。そ。ろ。浅野孫兵衛。此。是。代。命。也。二。本。の
城中。僞らせ。る。長治友之。出。迎。設。席。の。禮。と。厚。く。て。ま。つ。秀。吉。の。禮
する。酒肴と受収め。荒。前。書。が。返。書。と。披。き。関。る。その。文。に。曰



豊臣記五編卷之二

三



豊臣記五編卷之二

三

に入来さへ。長治の室。若菜。作とひるより。その心底と悟る。是は。二才の児
 と判殺して。その身も。市時に自殺する。此小坐席と双する。若くを。妻室
 といひ。見る。姪身なりしが。預て。適きぬ。道理と覚悟。共は。又小伏し
 へ。所も。無事に。堪ざる。そのと。眼。前。へ。長治。が。心。や。痛。心。か。り。ける。長治
 の。入。へ。る。易し。と。本。の。席。に。坐。込。り。申。の。刻。小。を。近。な。れ。バ。肚。刺。る。準。儀。を
 一つ。毛。山。城。さ。と。納。り。小。愛。相。嘗。く。来。ら。ざ。ば。を。士。と。走。く。僅。儀。を
 小。意。未。練。り。大。内。愛。相。遠。期。小。身。り。て。愛。心。か。り。士。に。若。て。恨。ける
 中。う。今。更。俺。們。の。死。と。逐。て。士。卒。と。助。る。不。得。か。一。卒。城。慥。を。ぬ。その
 ろ。う。バ。城。小。火。と。無。将。率。倍。小。我。死。る。を。本。意。な。れ。い。を。徒。死。す。に
 辱。死。と。更。小。同。心。せ。ざ。り。し。か。バ。長。治。大。小。憤。り。我。目。下。既。小。秀。吉。と。盟。と。思
 ふ。一。物。と。倍。く。さ。小。依。て。款。を。う。も。我。義。の。成。る。と。感。得。し。て。酒。肴。と

愧。皇。者。敬。以。諸。士。に。を。送。若。と。分。興。て。事。を。や。遠。小。決。した。り。然。る
 と。愛。相。義。物。小。肯。さ。没。後。の。悪。名。を。招。く。る。腐。揚。未。練。の。奉。山。か
 り。程。令。今。自。死。と。適。す。とも。永。く。生。き。身。に。を。め。は。攻。殺。さ。れ。て。愧。か
 る。人。の。お。し。る。事。の。不。為。に。あ。ら。べ。諸。士。違。ふ。に。小。料。簡。や。と。教。圍。く。罵。る。に
 ぞ。諸。士。も。愛。相。が。心。底。と。憎。む。り。大。將。の。仁。義。と。全。せ。ん。と。天。守
 以。在。り。つ。愛。相。と。款。出。て。斬。殺。さ。り。その。職。と。長。治。小。探。し。な。れ。ば。こ。ま
 以。安。達。し。ま。未。然。と。心。靜。に。傷。害。せ。ん。と。長。治。友。之。次。身。小。座。し。肚。刺
 刀。手。に。拵。ま。ぐ。

今。も。唯。恨。も。何。し。諸。人。の。命。に。對。る。我。身。と。か。り。を。長。治
 命。と。も。恨。ま。さ。り。り。梓。弓。來。れ。世。ま。く。の。名。と。名。身。友。之
 と。梓。世。と。保。し。て。肚。刺。到。小。ぞ。之。宅。肥。兼。治。忠。切。筋。と。振。揚

君のくハ憂身此命あまうせん

と口をくくはく洞とたふまゝ兄弟と勅前は其身も若く産成
係りて。胆十文字ふり判に。深くこそ猶更れ嗟乎惜つる大將長
治行年はよりて廿二歳舎友之廿一歳なり。遠英雄に聘替て大内山
城吉賀相ハ嫉妬の心深とをりて。三年。天正六年より。牢城のその際ハ勇士
と失ふこと八十餘個。別下の系譜と断絶せしめゆくまらく若と穢
して。万代までの胡盧とどありぬ。諸も之將軌則の如く相羅をさば。秀
右物にさくも遠も。去年と皆助放ち。三個の藏と安土小磯り。別
所一黨滅失て。播州一國平治のよしと。仔細小言状なり。なるに七。信長
大に歎惋せしき。赤威帖ハ添らまき。恩賞夥賜りたる。秀右之本の
城小扱て。さづ國中の政勢を定め。寛仁と施て。庶民を抚育し。大度と

ふて。鄰國と化さる。小但馬備前美作備前備後。領め秀右の旗下に属し。
威風と四國九州まで。吹轟して。廣大なる。遠におつく。荒草古在國安
途の工夫成る。新小居城と結構せんと。黒田官を誘は。高儀し。これを
考る。圖号と画出して。大將秀右に献して。俾せり。遠之本。釜山の城廓
ハ最も之費の勇産なるまじも。急境ふして。奉調し。國主の居さへさ
地はわろ。祿乃夫精しく。地の理と察る。小飾。本郡。姫路こそ。秀右不
窮の佳境にして。政勢軍用さつるが。全く備るのさる。以。要産もまこ
嚴なり。海陸寛通。如意なるを。とて。四民。さる。遠地。集る。終に。敏。昌
の。諸地。なれば。よろしく。姫路。小居城。居る。武威。と。海西。に。及。り。又。と。重
理。分明。小。初。め。たる。に。七。秀。右。の。美。に。回。意。し。つ。四。之。親。案。と。去。除。て。要
産。自由。に。可。得。如。意。なる。地。の。理。と。擇。り。羽。柴。さ。づ。の。料。索。して。黒。田。淺

野と奉行とさしめ。三月初旬に浦坂頭效隆の長城首尾せり。是後これより姫路に搬居。國の政事こころかくよく根本と強うて。後中園の地も攻投らんと。その準備とぞかゝるが。浮田とよりく。款地と穿し。せ。方術の通根も執着人と。和泉守に指号し。彼を児崎の西南なる。浮田に城を筑を。浮田七之清右衛門。同与右衛門。基家。嫡子。と大物と。戸川肥前守。是を右衛門。左衛門。池田八十右衛門。浮田。修理。進。倚。に。之。子。飽。務。を。付。與。み。う。め。梅。溪。の。城。も。凝。守。ら。せ。り。

降漢合我浮田基家我死属謀和逃款

人情の及波瀾の如しと。爰も浮田が強き不倚ること。名へその體と見え。小こも。然も。六。梅。溪。小。卒。城。の。子。を。小。早。川。藩。系。早。く。も。所。出。し。梅。溪。氏。壓。ち。人。と。那。不。より。四。十。餘。町。と。隔。き。美。飯。山。に。疎。寨。を。構。へ。穂。井。田。信。謙。守。

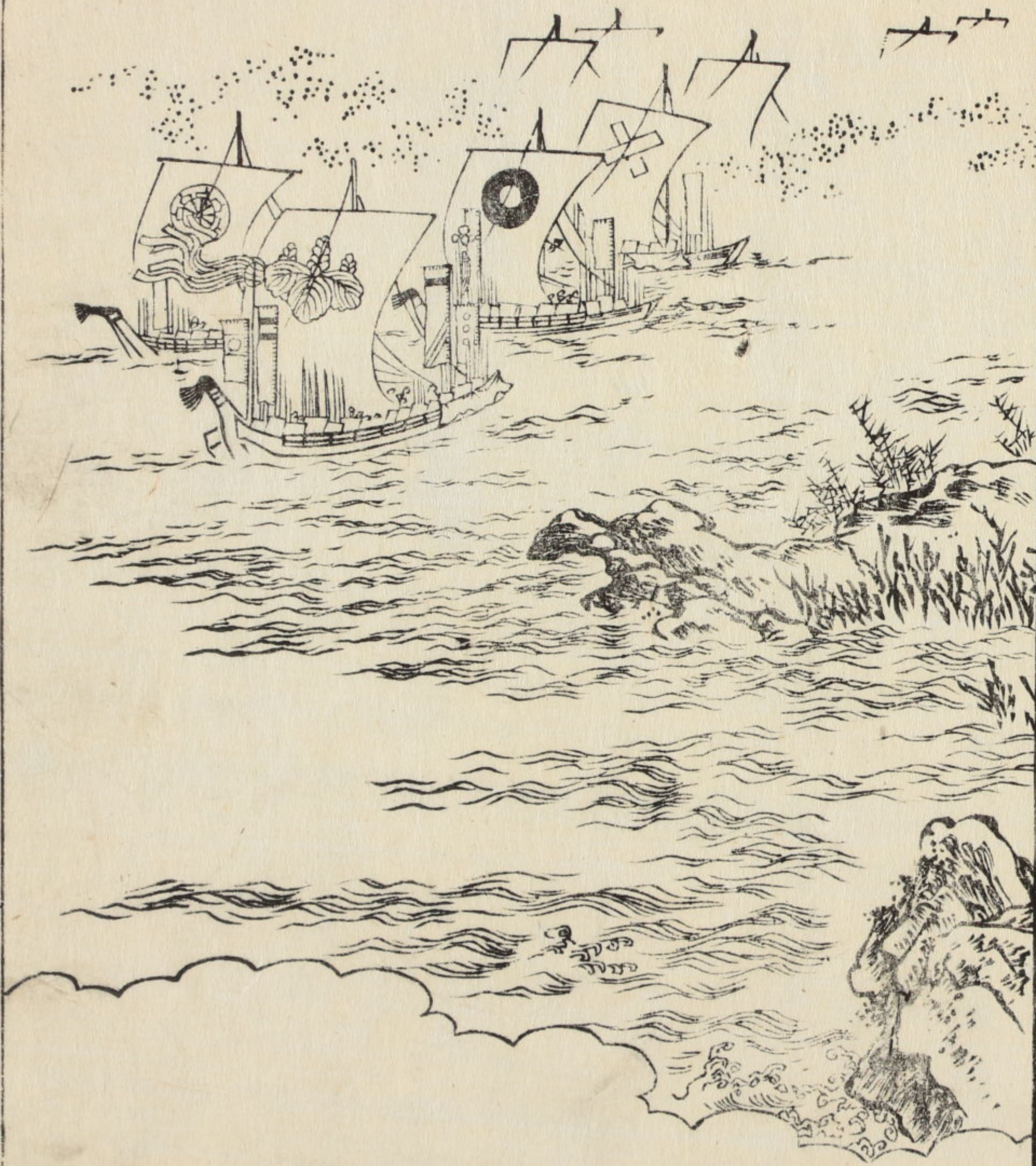
梅溪ハ見
浮田家
の
所
出
ル
在

と大物とて。有地。美。飯。山。古。志。清。右。衛。門。村。上。右。衛。門。後。丹。孫。左。衛。門。梅。田。出。雲。守。俊。一。子。竹。人。急。に。短。寨。を。結。構。せ。ん。と。し。浮。田。の。基。士。門。を。これ。と。所。ぞ。ふ。の。を。と。美。飯。山。小。推。進。て。修。理。を。拒。て。攻。起。き。是。は。毛。利。の。志。を。大。に。怒。り。逃。返。さ。ん。と。擊。て。出。官。表。す。後。方。由。は。合。戦。を。う。り。遠。後。初。の。美。大。物。の。指。揮。す。り。は。松。の。岡。幸。右。衛。門。が。遂。に。双。方。大。合。戦。を。う。り。浮。田。家。より。大。物。與。右。衛。門。基。家。戸。川。肥。前。守。秀。安。自。軍。を。救。へ。ん。と。お。て。後。色。は。小。早。川。の。陣。中。より。穂。井。田。村。上。右。衛。門。の。軍。士。と。敵。せ。り。と。推。考。し。遂。に。松。岡。陣。中。に。救。刻。が。深。構。合。し。浮。田。の。志。を。う。り。め。起。し。風。を。成。大。物。基。家。大。怒。て。奮。激。す。り。遂。に。自。方。の。初。靜。う。か。返。せ。戻。せ。り。呼。ぶ。も。う。つ。群。組。起。た。る。款。中。一。只。卓。錫。に。く。棚。て。入。り。四。角。八。面。に。地。遠。里。暴。に。虐。て。毛。利。の。志。を。八。方。より。推。提。綱。自。拾。の。難。し。と。さ。し。大。物。の。志。を。取。り。毛。利。の。志。を。八。方。より。推。提。綱。自。

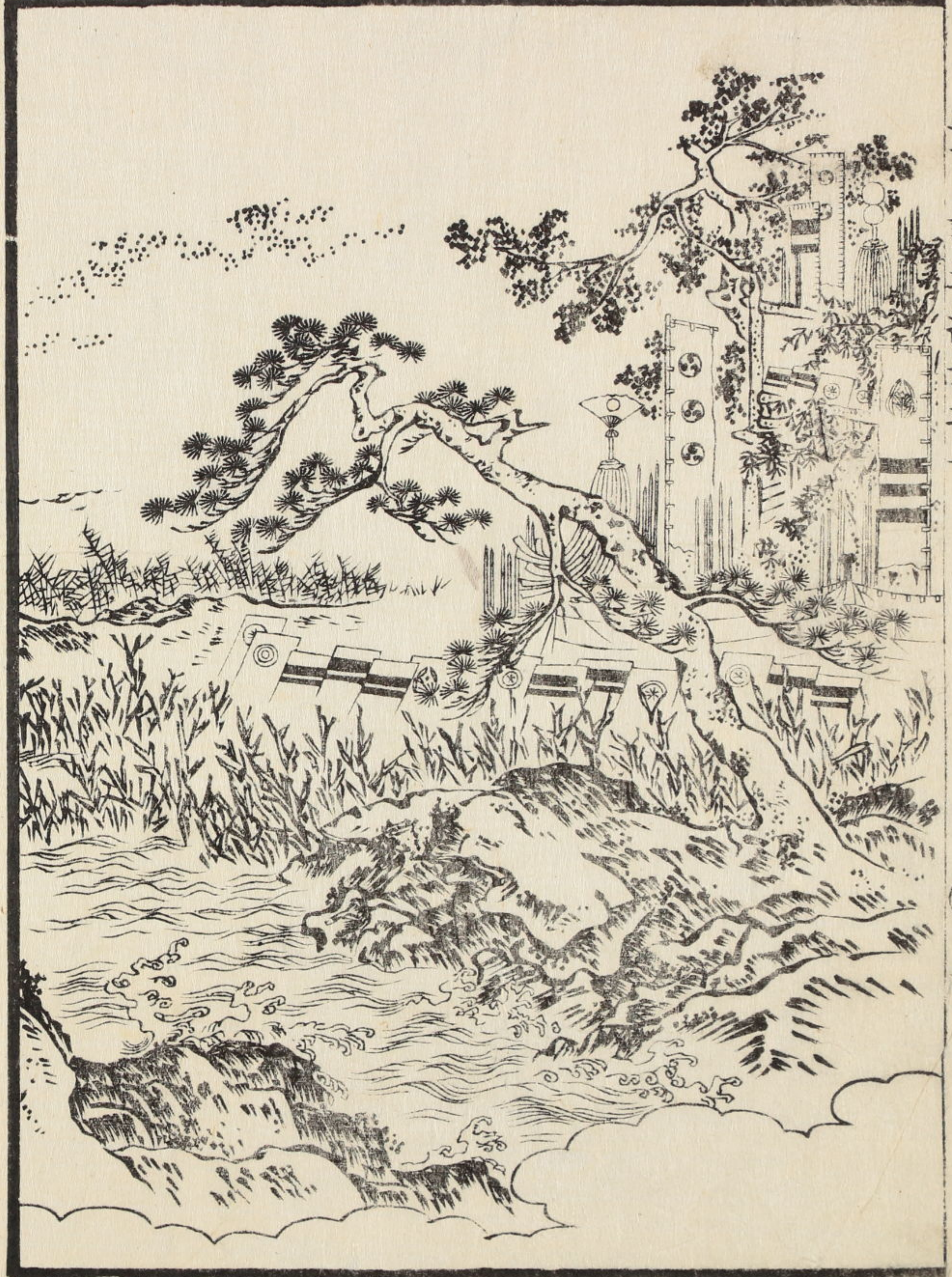
他先以之政人と其基家猛勇の壯大將也。自方の繼ぐぬと顔に地を
 に伝せしむ斬て統軍款を夥政授とて後以。惟とも知し以款陣より。其
 統一費を成り。哀を與て其基家。子禮板を敵に殺され。鬼神を
 かくす。其堪るべき馬より撞とつ。墮る。款を夥走。倚り。終に首を政
 授する。毛利勢はこれ小氣とほく。まわく。統軍て逃散せり。浮田勢は
 起是ともく。敵れをを戸川秀安。只一騎子。端止り。大將基家を政
 れく。小面目帰らるべき。借小我死さんまの。馬ひと返して款陣
 へ。正裏にわく。翔く。投殺神程に。桐剛と。然る。小羽。柴。筑。守。政。漢
 繼後のたれと。沙野。泳。去。清。長。政。小。三子。作。務。と。自。與。を。て。兵。船。殺
 十艘に。投。せ。せ。奥。陽。の。浦。と。獲。帆。を。一。浦。前。見。傳。へ。い。を。せ。る。か。途
 にく。听。中。國。勢。と。不。討。の。合。戦。あ。る。より。由。志。長。政。基。地。小。那。地。一。擲

拊疾しや。連しと。陸地に。登り。英。率。二。子。有。作。人。一。人。の。中。國。勢。は。横。隙
 より。怒。楮。の。像。き。勢。ひ。は。く。樹。て。菴。る。小。竹。秀。安。これ。小。ま。は。く。勢。力
 と。得。て。勃。然。と。て。色。と。整。は。これ。が。小。毛利。勢。政。預。する。事。多。う。り
 たる。由。急。を。合。戦。の。これ。ま。は。く。う。り。と。急。を。殘。を。率。備。め。表。飯。山。進
 返る。肥。前。守。も。長。退。せ。た。淺。野。も。業。内。知。れ。バ。日。の。暮。を。さ。に。力。を。く。
 情。漢。の。城。に。還。さ。る。か。隆。系。躬。と。告。る。と。聆。熟。く。思。慮。と。め。ら。る。と。小。自
 軍。の。結。案。も。い。ま。と。成。り。む。秀。右。の。加。勢。も。到。着。し。ゆ。人。是。亦。三。子
 作。人。と。聞。たり。和。泉。守。も。其。右。布。が。政。する。小。憤。怒。と。發。し。勢。込。む。
 攻。蒐。る。を。バ。自。方。の。わ。く。雜。兵。も。人。先。む。る。响。ハ。利。あり。と。い。は。急。に。若
 族。出。軍。して。情。漢。の。城。と。攻。墜。さん。と。仰。付。小。備。軍。一。陣。拘。る。一。二。万。騎
 と。率。後。久。備。前。情。漢。小。推。進。る。隆。系。元。來。慎。之。深。に。大。將。を。さ。バ。自。分

秀吉 備前 澳 謀 七 早 七 川 退
吉 前 小 船 小 水 川 退



東臣巴五編卷之二



東臣巴五編卷之二

の隙便と突固め彼を色ざる準備して候士と出でて攻さる。遠駒
 崎の城中に羽柴の加勢ありといふも。毛利の勢ふに校まき
 十分の一の小勢あるも。戸川秀安。墨山一助と東投りし。小勢の
 微力なき。秀右の方へ加勢と預ふ。荒前もこれと駭接せんと
 ふ時境。茲に一の陣事出来ぬ。其所留を鞠ぬるに。先達て松州なる石
 山本願寺の願如上人。右府信長と和年あり。大坂の地を退き。死
 川藩の杜へ移住あり。小儲公。友如上人も。退きしりくたるといふも。
 門流の宗信長公と恨まゆつせ。一揆と起し。強動し。たき。畿内
 なるも。穩あり。信長公ふ。這り。代。集。機。群。の。翻。ま。るとも。あ。が
 し。め。ら。ぬ。較。年。意。に。望。た。る。本。願。寺。上。人。又。子。石。山。の。地。を。退。き。せ。り。わ。は
 天下の統の功成ぬと。い。か。が。れ。た。る。ふ。や。最。漢。滅。く。も。舊。長。悔。と。退。放

あ。せ。つ。け。ら。る。その。面。に。は。伏。久。間。右。衛。門。尉。信。整。子。息。基。九。年。林
 佐。渡。も。安。藤。多。賀。守。御。り。各。然。せ。る。罪。な。け。き。ど。も。首。の。懸。懸。と。致。さ。る。
 得。不。せ。る。色。々。ら。あ。と。し。諸。士。も。恐。怖。の。懐。と。し。て。安。心。な。り。たり。
 秀。右。も。遠。等。の。例。に。法。を。傳。言。も。し。り。し。て。畿。内。の。強。弱。も。心。に。望。き
 べ。酒。前。の。加。勢。を。難。き。な。が。り。故。を。悔。え。ぬ。不。な。れ。と。一。の。計。策。と。之。夫
 一。たる。願。き。悔。漢。不。進。し。る。款。へ。小。早。川。一。隊。あり。隆。系。原。素。智。謀。あ
 じ。く。慎。密。と。大。お。し。れ。其。機。不。棄。し。奇。計。と。設。け。還。ら。せ。せ。り。と
 思。着。秀。右。も。つ。く。大。軍。も。て。酒。前。へ。出。陣。あり。し。と。自。方。の。諸。軍。へ
 詢。候。し。夥。し。く。准。備。な。し。め。然。し。て。魁。隊。五。子。餘。人。と。數。百。般。に。提。提
 ら。せ。毛利。勢。を。後。面。へ。函。銃。せ。帰。路。と。新。裁。し。門。の。勢。と。使。人。で。設。提
 登。し。と。披。露。し。し。峰。頂。賀。又。子。官。給。若。任。房。と。大。將。と。し。て。懸。計。略

と披輿ちり一ひとたれた。バは樽すん湊みなと宮みや於お奉ほう領りやう。而しか地ちにに艦かん艘そうとと併ひらりり。其その勢せい五ご千せん餘じゆ人にんといいとともも。實まこと一ひと子このの使し卒そつののささりり。大だい將しやう秀しゆ右ぎやう三さん万まん作さく務むふふ。門かど控かへてて出い馬ばののよよ。昔むかしくく所ところ候こうさせせ弘ひろくくままるるにに。毛利もうり家けのの同どう者しやこれこれ攻せ略りやく。急いそにに注ちゆう伸しんしし。々々々々々々。衆しゆよよ遠とほくくにに。石いし門かど控かへ自みづか方かたハハ僅わずか二ふた万まん餘じゆ人にんふふ。秀しゆ右ぎやう三さん万まんのの加か勢せいああつつ。浮うき田でん勢せいとと合あはあれれ。和わ合がふふ万まんももけけりりぬぬ。其その三さん後ご路ろとと断たるる。終おひふふ級ぐん軍ぐんにに送やるる。船ふねはは羽は柴しばがが其その進しんせせぬぬ。際さき小こ退たい軍ぐんせせんんをを河かへへののべべ。然しかハハささりりなながが。矣やりりやや。虚まよりりやや。いいふふとと海うみ上かみとと。船ふね艘そう員いんもも。数かず百ひゃくにに餘あまるる。速はや帆ふ旗はた標ひょう馬ば標ひょう強かぢににおおももとと。ししくく捨すてて。傾かへ風かぜ小こ隨ずいてて。船ふね走そう馳ちくく。光ひかり治ちのの澳あとと樟しやう涉せつりり。蜂はちまき淡たんへへ。若わくくてて。毛もう利り勢せいのの備そなへへ。後うしろ面めんのの方かた一ひと指さし細こるる。歸かへ路ろとと絶た断た断た。路ろりり。々々々々。小こ早はや川がはのの兵へい隊たいいいふふ。怯おそささ。隆たか累かさね一ひと隊たいのの合あ戦せん。累かさね一ひと新あらたとと若わかけるける。とと。河かへへ。藝い州しゅうもも既すで遠とほくく。若わかりり。隆たか累かさね一ひと隊たいのの合あ戦せん。ハハ危あやささ。事ことよよとと駒こま馬ばとと。退たい去きのの詞ことば。我われ備そなへへるる。隆たか累かさね一ひと隊たいのの合あ戦せん。小こ早はや川がはのの合あ戦せん。藝い州しゅうへへ。七しち退たい取とりり。これこれにに。因よりり。蜂はちまき湊みなと。官くわん郡ぐん。姫ひめ路ろのの城しろへへ。歸かへ陣ぢん。々々。新あらたののよよ。攻せめめけけ。秀しゆ右ぎやう三さん万まん然しかここ。大だいにに。河かへへ。掌て拍ぱく。々々。大だい笑わらいいけけ。里さと。

繪本豊臣勲功記五編卷之二終

